

学校経営推進費評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立刀根山高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	Y 3年生卒業前アンケートにおける「進路指導による自己の変容」に関する肯定的回答の向上 Y 授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的回答の向上 Y 学校教育自己診断（生徒）における「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答の向上 Y 学校敷地内の里山である「裏山」の活用状況（授業・行事・地域連携・ボランティア活動として有効に活用）の向上
計画名	「刀根山・里山活用プロジェクト～人を育てる拠点として～」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1. 教員の授業力の強化と「確かな学力」の育成 （3） 生徒の自習力や学習意欲の向上及び整備された教育環境の積極的活用により興味・関心を持たせる。 2. 生徒が希望する進路の実現のため、学習指導と進路指導の充実 （1） 3年間を見通した進路指導計画によりキャリア教育を充実させ、大学進学等の目標の実現及び、さらに高い目標の設定とその実現をめざす。 4. 地域に開かれた学校づくり （2） 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。
事業目標	本校生徒は学力面の上位層の大部分がクラブ活動に励み、地域との連携活動やボランティア活動にもよく取り組んでおり、9割程度の生徒は大学進学する。将来に対してより高い志を抱き、自立的な進路選択や将来計画をもって進学する生徒が増えてほしいと考えている。 これまで「地域連携の拠点」としてきた敷地内にある「裏山」を活用し、社会人として自立した人を育てるキャリア教育の観点から、観察や実習、里山体験、地域や大学との連携を行う。取組みを通じて生徒の自尊感情やモチベーションを高め、学習への意欲や興味・関心を向上させるとともに、「生きる」意味や「学ぶ」意味を考えさせ、「裏山」を「希望する進路の実現のための拠点」にしていく。また同時に、災害時のボランティア支援基地として防災教育の推進にも活用する。 3年生卒業前アンケート、授業アンケート、学校教育自己診断、裏山等の活用状況を指標とし、これらを向上させていく。
整備した 設備・物品	剪定用ハサミ（20本） 鞘付き剪定鋸（20本） 立刈り鎌（5本） 替刃式草刈鎌（15本） 羽釜（5台） かまど（5台） 寸胴鍋（6台） ステンレス製メッシュラック（2台） エリア案内板（2台） ビオトープ解説板（1枚） 樹名札（180枚） 樹脂ポール 800mm（10本） 樹脂ポール 400mm（10本） V型脚 300mm（10本） SUSスプリング 200mm（60本） 校内植生マップ作成（8000部） 裏山への入りロスロープの改修

<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>主担： 「刀根山・里山活用プロジェクトチーム」 取組みの実施者： 管理職・首席・関係教科担当者・生物エコ部など関係クラブ顧問・生徒会顧問・有志 →最終的には全教職員で実施することをめざす</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>Y 校内プロジェクト委員会を年間3回開催し、情報の共有、取組みの立案、プロジェクトの運営に当たった。構成メンバーは校長・教頭・事務長・首席（1名）・教諭（8名）・実習教員・校務員の14名。</p> <p>Y 主な役割分担は「総務」「記録」「会計」「連絡・資料印刷」「広報」「校内への働きかけ」「事業評価」とした。</p> <p>Y 「植生マップ」の残部については学校説明会に参加した中学生や学校を視察に来られた地域住民・他校の教員等に配付した。</p> <p>Y ハサミ・鋸・鎌、羽釜・釜戸・鍋については下記のワークショップ等で昨年度以上に活用した。</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>Y 4月20日（金）新入生対象裏山見学会 Y 4月27日（金）・5月1日（火）筍掘り体験 Y 11月2日（金）ドングリの試食と団子づくり Y 11月3日（土）公民館との共催事業として、ドングリの見本作製と団子づくり Y 11月24日（土）公民館との共催事業として、干し柿づくりや裏山の散策（晩秋の里山体験） Y 11月24日（土）公民館及び地元青少年活動団体指導者との共催事業として、「芋煮会」を実施。校内の枯れ枝処理の熱を活用して調理した。 Y 12月21日（金）職員防災研修として、燃料として裏山の枯れ枝などを利用し、かまどや羽釜を活用して炊き出しを実施した。 Y 12月27日（木）公民館との共催事業として、裏山で採取した枝や葉を使って門松と注連縄を作成。 Y 1月6日（日）「春の七草」の寄せ植えを作製し、地元のこども園や小中学校へ提供。 Y 3月4日（月）PTAの協力を得て、燃料として裏山の枯れ枝などを利用し、餅つきを実施。約40%の生徒が参加。</p> <p>【大学・地域との連携】</p> <p>Y 11月7日（水）兵庫県立大学の秋山教授を招き、「コケの不思議その多様性と美」というテーマで講演と実習を実施。 Y 11月18日（日）神戸女学院大学の遠藤教授及び同研究室の大学生の指導の下、ハチやその他昆虫の調査を行った。あらかじめ里山に仕掛けておいた竹製のトラップを回収し、生物実験室でトラップを解体し、中にいる昆虫類を調べ、教授から解説を受けた。 Y 3月21日（木祝）池田植物同好会の谷本会長を招き、本校の裏山とグラウンド西側緑地に生息する早春の植物を観察。 Y 3月30日（土）池田植物同好会の谷本会長を招き、本校の裏山とグラウンド西側緑地に生息するシダ植物を観察。 Y 3月27日（水）大阪市立大学理学部附属植物園見学。【授業での活用】 Y 生物科において、「生態と環境」をテーマに里山でフィールドワークを実施。 Y 家庭科「生活科学」において、裏山で採取した植物を材料にした調理や、食用にできる植物とできない植物の判別などを実施。 Y 公民科「現代社会」において、環境問題の単元「里山林」の学習として観察を実施。</p> <p>【その他】</p> <p>Y 12月11日（火）、購入したハサミ・鋸・鎌を活用し、例年通り「裏山一斉清掃」を実施。各クラスの環境委員を中心に、PTAの生活委員や教員とともに笹刈り・枯れ枝の伐採・側溝の清掃などを実施。 Y 1月29日（火）3年生、2月5日（火）1・2年生を対象に里山の活用に関するアンケートを実施。</p>

	<p>Y 本事業の集大成として「平成 30 年度全日本学校関係緑化コンクール」にエントリーしたところ、学校林等活動の部で「特選」に選定され、平成 31 年 6 月 2 日（日）、愛知県で開催される全国植樹祭の場で表彰されることになった。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 3 年生卒業前アンケートにおける「自分の希望進路が見えてきた」「進路実現のための自分の課題が見えた」「社会に出ることの意味について考えることができた」「自分自身の適性や特徴について考えることができた」の合計（H27 年度 70%）を 75%に引き上げる。</p> <p>② 授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」（H27 年度 77%）を 80%に引き上げる。</p> <p>③ 学校教育自己診断（生徒）における「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」（H27 年度 82%）を 85%に引き上げる。</p> <p>④ 裏山に関する生徒アンケートにおける「裏山を有効に活用できた」を 70%にする。</p>
<p>自己評価</p>	<p>① の結果は 82%（昨年 67%）で大きく増加した。進路指導の様々な取組みが反映しているが、本プロジェクトも一定の効果があったものと分析している。……………（◎）</p> <p>② の結果は 76%で昨年より 2%上昇した。まだ十分とは言えないが、本プロジェクトを授業に直接結び付ける機会も増え、今後はさらに裏山や本事業で購入・設置したものを活用し、成果を上げていきたい。……………（△）</p> <p>③ の結果は 86%で昨年(87%)より 1%下降したが高い水準を維持した。本プロジェクトの取組みを通して、地域住民や大学関係者など、いわゆる「斜めの関係」の大人との触れ合いによるよい効果が表れていると分析している。……………（○）</p> <p>④ の結果は 83%で昨年(72%)より 11%上昇した。この結果については、今年度は本プロジェクトが最終年を迎え、生徒の認知度が高まったのと同時に、様々なワークショップに参加した生徒や、授業で裏山の植生等を直接体験した生徒が増えてきたことを反映しているものと分析している。……………（◎）</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>裏山というフィールドが「人を育てる拠点」となり、生徒たちは地域連携・高大連携を通して様々な人たちと出会い、裏山とその資源を基にした授業を受けることで、各々がキャリアについて考えることができた。</p> <p>自然の大切さや偉大さを知るとともに、親や教師以外の大人との触れ合いながら汗をかき、褒められることを通じて自尊感情を高め、進路に対する意識を高めた。しかし学力向上には大きくは結び付かなかつたと分析している。</p> <p>今後は、より多くの生徒を参画させることが課題である。クラス・クラブ・生徒会・環境委員会などの単位ごとに具体的な実施プランを示し、里山で行動を起こさせていきたい。地域や大学の関係者と観察・調査を通してコミュニケーションを図ったり、各教科において里山の活用方法を検討して授業で取り上げたり、課外活動として、里山で取れた産物や燃料を使ってアクティビティ（調理・草木染・リース作成など）を実施したり、という内容を構想している。取組みについて、生徒会等を通じて広報していくことも考えている。</p>